



旧荊崎町の花  
ひまわり

荊崎地区区会連合会 VOL: R5 - 1号

区会くまざき

発行 荊崎地区区会連合会  
発行責任者 会長 小原 正彦  
編集責任者 副会長 倉本 茂樹

令和5年度荊崎地区区会連合会及び

つくば市区会連合会総会報告

荊崎地区区会連合会副会長 倉本 茂樹

いささか時間が経過しておりますがご報告します。

※「令和5年度荊崎地区区会連合会（40区会）総会」

4月24日(月)午後1時30分から3時30分まで、荊崎交流センターにおいて開催されました。例年は、五十嵐つくば市長のご臨席を得て、親しくご挨拶頂くのですが所用のため、次の挨拶文が寄せられ、ご陪席の大久保克己市民部長の代読によつて始まりました。

新年度ご挨拶（抄） つくば市長 五十嵐 立青

「ここ数年、新型コロナウイルス感染症への対応に迫られる状況が続いてきましたが、区長の皆さまの力強いリーダーシップにより地域が守られていることに心から御礼を申し上げます。区長の皆さまは、まちづくりにおける市の大切なパートナーです。新年度もどうぞよろしくお願いします。」

さて、市内の人口は増加し続け、2年連続で政令指定都市等を除く一般市で転入超過数が全国1位となりました。昨年6月には人口25万人を突破し、今、つくばが選ばれていることは数字が示していると思います。ただ、人口増を手放しで喜ぶわけではなく、それに伴う新たな課題に対応し、同時に人口減少地区における課題にも一つひとつ丁寧に向き合っていく必要があります。特に、この3年間の新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、地域に非常に大きな影響を及ぼしました。新年度予算では、新型コロナウイルス感染症によって抑制的にならざるを得なかった様々な活動を再開し、市民の皆さまが地域で積極的に活動・交流できるように「静から動」を目標とした事業を多く打ち出しています。例えば、誰よりも外出を自粛していただいた高齢者の皆さまの移動手段として、また健康増進のための手段として、電動アシスト自転車に対す

る大きな金額の補助を新設します。高齢者の皆さまが積極的に文化芸術を楽しむ機会のために鑑賞チケット費用の助成も実施します。また、すべての地域交流センターを居場所として充実させるためにソファ等を置いたフリースペースを確保したり、無料Wi-Fiの整備をすると同時に、全交流センターに相談センターとしての機能を持たせることにしました。ぜひ区長の皆さまには地域のご要望やご相談にお気軽に活用いただければと思います。

つくばの玄関口であるつくば駅周辺のリニューアルも行つていて、今年度中につくば駅周辺の公共施設等を一体化した新たな市民活動拠点つくば市民センター「ユリドイオ」をオープンさせます。さらにBiViつくばには、今まで中心部になかった市民窓口センターも開設します。

他にも数多くの施策を実施することで、地域課題の解決や市民サービスの向上を目指しています。概要は「つくば市令和5年度予算 主な取組」をお配りしますので、ぜひお目通しただければ幸いです。

今年度もこれまで以上に市民に寄り添った施策を数多く進め、誰一人取り残さない包摂的で持続可能な「世界のあしたが見えるまち」を区長の皆さまとともに創っていききたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。」

なお、不肖81歳の倉本は、既に電動アシスト自転車購入補助金を得て、快適に乗り回させて頂いています。

総会の内容は以下のとおりです。

議案の①令和4年度事業報告・収支決算報告・会計監査報告 ②区会役員選出 ③令和5年度事業計画及び収支予算案（約134万円）の3議案とも満場一致で原案どおり可決しました。役員の出選については、会長に小原正彦氏（高見原三丁目）、副会長に倉本茂樹（森の里）山下輝雄氏（池向）、会計に谷村千代次氏（高見原二丁目）、監事に中村房好氏（富士見台）平林由美子氏（高見原一丁目ランドスケープ）。

会長から顧問に稲川誠一氏(あしび野)・宮澤正氏(宝陽台)が委嘱されました。

今年度の区会活動方針として①くきざき夢まつりへの協賛②社会福祉協議会活動への支援③青少年を育てるつくば市民の会茎崎支部への支援④谷田川流域葦焼き連絡協議会活動への協力⑤茎崎庁舎跡地の着工進捗状況等の確認⑥各団体の協賛金等徴収活動への応援協力が挙げられております。

③つくば市社会福祉協議会会費徴収(小笠原氏)

②つくば市議会業務継続計画(皆川・塩田・橋本議員)

①つくば市社会福祉協議会会費徴収(小笠原氏)

＜総会の模様＞



＜茎崎地区総会＞



＜つくば市総会＞

※「令和5年度つくば市区会連合会(597

区会)総会」

5月23日(火)午後2時から4時まで市役所において開催されました。総会に先立ち、ご臨席の五十嵐市長から、つくば市のスーパーサイエンスシティ構想のほか市政への取組について説明がありました。

総会は、①令和4年度事業報告②令和4年度収支決算報告・監査報告③役員改選④令和5年度事業計画⑤令和5年度収支予算(約1億2千万円)が審議され、事務局原案通り可決・成立しました。役員として連合会会長は、大穂地区区会連合会

長の野澤洋夫氏、副会長に谷田部地区区会連合会等会長4名の他、茎崎地区区会連合会会長小原正彦氏が選出されました。

五十嵐市長をお招きしての勉強会報告

茎崎地区区会連合会副会長 山下 輝雄

今年度の当区会連合会事業の一環として6月10日(土)五十嵐市長を茎崎交流センターへお招きして、最近の市政等について説明頂く勉強会を開催しました。勉強会には各区長の他に、担当市役所職員、民生委員、シルバークラブ、防犯協会、青少年を育てるつくば市民の会等からの出席もあつて出席者が50名を超える盛会でした。

冒頭、市長から6月3日(土)に発生した台風2号に伴う大雨による谷田川増水による森の里への越水や雨水排水管破裂によるトラブル、約100ヘクタールの水田への水没について説明があり、国、県と連携して今後の対応を検討したいとのことでした。

続いて本題に入り、6つのマニフェスト①徹底した行政改革②安心子育て③頼れる福祉④便利なインフラ⑤活気ある地域⑥誇れるまちについての説明と、これらに基づく1期目82の公約が90・4%達成されており、2期目の135の公約が89%達成可能となっているとのお話でした。続いて紙面の都合上、項目のみの紹介となりますが、次の事項について説明がありました。詳細は「かわら版」等、つくば市広報をご覧ください。

- ①つくばスーパーサイエンスシティ構想
- ②つくば市かわら版・かわらチャンネル
- ③高エネ研南側未利用地への対応

- ④不育症助成事業、医療福祉費支給制度
- ⑤コミュニティスクール(地域と連携で子供育成)
- ⑥茎崎庁舎跡地の利活用
- ⑦茎崎保健センターの利活用
- ⑧高見原等周辺市街地の活性化
- ⑨中心市街地の活性化

⑨中心市街地の活性化

なお、「徹底した行政改革のうち、地域交流センターの機能拡充について、地域相談センターと統合させ、便利な機能を持たせるとともに、センター内に「居場所づくり」を設置したが、既に機能している。大いに利用されたい」とのことでした。

以上の市長説明後、出席者から次の要望・意見等が出され、市長からいずれも前向きに検討するとの回答がありました。

- ①空き家対策をお願いする。
- ②自治会活動の予約システムを市のプログラムを利用できないか。スーパーサイエンスシティは、宝陽台だけでなく、森の里や桜ヶ丘と連携して茎二小区全体として進めるべきと考える。
- ③防犯カメラの設置をお願いしたい。
- ④茎崎交流センターの印刷機を最新のものに。また使用料無料団体には、仮予約をやめ1回の予約で済むよう効率化を希望する。
- ⑤憩いの家の解体を早めをお願いしたい。



＜勉強会の様子＞



＜講演中の市長＞

## 災害に備えて

荻崎地区区会連合会顧問 稲川 誠一

○気象庁は、7月22日(土)、関東甲信越、東北部・北部が梅雨明けしたとみられると発表した。今年、早い段階から猛暑日が続いたので梅雨明けはかなり遅く感じた。梅雨前線の活動に線状降水帯の発生が重なり、特に九州北部から山陰・北陸、そして秋田県では記録的な大雨となり大きな被害を与えた。

○また、6月初めの台風2号による記録的な大雨は、茨城県がまとめた床上・床下浸水被害によると、その9割が取手市双葉地区であることが分かった。つくば市でも6月2日(金)深夜から3日(土)の午前6時20分までに254.5ミリを記録し、観測史上1位を更新した。荻崎地区における森の里では、六斗から下がった谷田川沿い左岸からの越水が発生し、荻崎中学校とふれあいプラザに避難所を開設する事態となった。



＜土嚢設置作業＞



＜設置された土嚢＞

○その瞬間、生き残れるのか

つくば市教育局生涯学習推進課は、災害が起こった時に自分自身の身を守り、救助の手が届くまでの数日間、生存率を高めるためには日頃の備えと地域との繋がりが大切であるとの観点から、いざという時に正確な判断が出来るように、災害に対する正しい知識と心の備えについて、日本防災教育振興中央会の仲西宏之氏を講師に招いて勉強会を行った。

○民間緊急避難場所として共同ステーションを考へ、ハザードマップをベースに駐車場、スーパー、パチンコ店などを候補地として考え、埼玉県では実証実験を行っているという。

避難所などで、災害時最も大事なことは、水とエネルギーである。災害誘導員を先頭に伝言ダイヤルも効果的である。

○家族で生き残るには、災害について話し合っておくことが重要で、避難場所をきめておくことや災害伝言ダイヤルを活用する方法もある。

避難の三原則は、想定を疑い、最善を尽くし、率先して避難者になることと言われている。要支援者の名簿は、義務付けられるが、個別避難計画の作成は努力義務となっている。

マイタイムライン工程表を作成しておくことは重要である。

マイタイムラインとは、台風や大雨の水害等、これから起こるかも知れない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域特性などに合わせて、予め時系列で整理した自分自身の避難行動計画のことである。

○避難計画(マイタイムライン)として、台風や大雨が近づく前にやるべき備えとして、

- ①窓や雨戸にカギをかける
- ②側溝や排水口の掃除
- ③窓に飛散防止フィルムを貼り、カーテンやブラインドをおろす
- ④非常品の確認(懐中電灯、携帯用ラジオ、救急薬品、衣類、非常用食品、貴重品など)
- ⑤飲料水を確保し、断水に備えて浴槽などに水を張る
- ⑥避難場所と経路を確認
- ⑦普段から家族と連絡方法などを話し合っておく

## 随想

### 20数年前の思い出と今の生活

荻崎地区区会連合会会長 小原 正彦

ビルの谷間風と暖かい神田街の人情を感じながら過ごした、勤めを卒業したのが61歳。2ヵ月後から「あれっ！変だぞ」と感じた。この状態を何と呼ぶのか知らないが、鶏の昼寝・夏炉冬扇症候群と同じようなものだ。筑波のガマガエルよりひどい(蛙さんに怒られるかな)

そんな時に地域活動の役員をと誘われたが、断つて石材の街・万葉歴史の真壁町「永林寺座禅道場」に参禅を申し込んだ。十八世の住職曰く「荻崎がらじゃあ、遠がんべえがあ。どのがれえかがる50分ぐれえがあつげえろよ、つげえろごどにええごどがあんだがらなあ」と85歳の住職さんが茨城県の標準語で、ユーモアたっぷりにお話をして下さった。和顔悦色で私を迎えてくれた仏様の顔で、毎月一回の座禅会でしたが一度も休まず丸12年間お世話になった。

わたしの避難行動計画(マイ・タイムライン) わかりやすい版

はげしい雨や風のときに  
自分を守るよう、  
ふだんから備えておきましょう

【1】今すぐできること

【連絡先を確認しましょう】

名前	電話番号

【住んでいるところにどんな危険があるか知しましょう】

家の近くでどんなところ危険な場所かを知ることがあります。ハザードマップと見ます。

ハザードマップは自分が住んでいる所の危険度もわかります。

たとえば・・・

- 傾斜が急な場所や崖のそばには、大雨や台風が来たときに、土砂や石が落ちてくる危険があります。
- 川のそばでは、大雨や台風が来たときに、水が溢れ出てくる危険があります。

早朝6時30分に家を出発、前後左右に一台も車のない408号線を心地よい風を受けながら走ると、前方の筑波山がきれいに目に入り快適なドライブだ。

誰よりも早く道場に着き、簡単に体をほぐし座布にお尻を乗せ、バランスを確認して半眼に入る。さあ始めるぞ！定刻10分前になると皆さんがそうツと座るがちよつとざわつく。頃合いを見て和尚さんが入場、その時の和尚の衣擦れ音が耳に入り座禪開始だ。

筑波山の麓にある永林寺は自然界に恵まれた最良の里である。春は新緑で、小鳥の会話。夏は木陰でセミの声。秋は昆虫の大合唱会、時には雨だれの音や風のささやき、冬は手足の先が凍りつくような寒いところ。和尚さんの年齢になるには25年ある。精進 精進。

筑波山に毎月1回の登山をと計画したが8回が最高の結果でした。その後は年間に4〜5回、コロナで自粛中は0回。今年は1回だけ、足腰が弱っているが秋になったらもう1回トライしよう。

これだけではないとなく物足らなく、「お父さんソフトボール」チームに参加し、日曜日の午後練習で汗を流した。早いボールを投げよう！飛距離の大きいのを打つぞ！と無心になってじゃれついている姿を他人から見たら「年齢を考えろよケガするぞ」と思うだろうな。やっている本人たちは一生懸命なのだ。練習後のミーティング時のビールは格別に美味い、今日は1杯だけにしておこうと思うのだが11杯になってしまう、これが主目的で集まっているのかもしれない。仲間は50歳〜60歳半ばの警察官・バス運転手・先生・企業戦士・塗装業社長・公務員・その業界の強者ばかりでした。上下関係はありませんからみんな思っていることを何でも話し合えるのが最高でした。

このメンバーが、区会の役員を引き受けて協力してくれてありがたかった。残念ながら亡くなった方や、転居の方、施設でお世話に、寂しくなっています。現在は当時のメンバーは、私一人。もう引退時期だ、遅すぎた感あり。楽しい思い出が山ほど。ありがとう！



<筑波山遠景>

### シニアの生き方紹介シリーズ⑫ 水彩画を楽しむ

高崎 石山 克（高崎区長）

私が水彩画を始めたのは39歳の時でした。仕事をしながらの制作だったので。初めは1年に数枚程度の作品を描いてそのうちの1枚は、現在私が所属している日本水彩画会の展覧会に出品していました。約20年出品を続け定年前に日本水彩画会の会員になることができました。定年の2年前にそれまで書き留めた作品を中心に初めての個展を開催し、定年後は年間約30枚程度の作品を制作し、日本水彩画展を中心に出品活動が続ける傍ら、数年に一度個展を開催し、発表活動をしております。また、現在は、水彩画の普及と水彩画の好きな人が潤いのある日々の生活を送ることができるようお手伝いをするため、2か所で水彩画の指導もしております。

私の所属している日本水彩画会は大正2年に設立され、今年が百十回展を東京都美術館で6月に開催しました。

先般入選審査の後、関係者の懇親会があり、出

席しました。私のテーブルの向こうには80歳の作家さんが静岡から見えられ、地元では水彩画の団体を主催され、活発に活動されているということでした。さらに私の隣には、御年89歳の作家さんが北海道から見えられておりました。今でも日本水彩画会をはじめ他の展覧会にも出品を続けているとのことでした。皆さんライフワークとして水彩画を描いている方ばかりで、元気な人生を送られておりました。

何か楽しみながらできることを一生続けていく事は、その人を元気にし、人生を潤いのあるものにしてくれるということをつくづく感じました。私も残りの人生、水彩画をライフワークとして続けていきたいと思っております。



<制作中の筆者>



<作品の前で>

#### 編集後記

台風2号による大雨被害により、6月予定の荖崎地区タウンミーティングが10月14日(土)に延期されるなど、予定が狂い、本紙の発行も2か月遅れてしまいました。

今号に稲川顧問様の災害対応、小原会長様の随想、石山高崎区長様から水彩画に関する玉稿をお寄せ頂きました。感謝します。

(編集子)